

株式会社さくら都市総合研究所

主 席
研究員

清水 秀幸

寄稿

人口減少社会と
地方都市の活力再生

72



事業までの120年余りの間に、都合5回の駅舎の改築に着手している。

中でも、1993年の取り壊しまで約60年間、長野市民はもとより、長く県内外からの訪問者に親しまれた「仏閣型駅舎」が深く印象に残る。

1888年に開業した長野駅は、2015年の北陸新幹線金沢延伸開業に合わせた改築

2009年夏、長野商工会議所がJR長野支社を訪れ、「門善町にふさわしい駅舎の造形の復元」を陳情したことに端を発し、JR側が受け入れたことでそれが実現したものである。

（2009年夏、長野商工会議所がJR長野支社を訪れ、「門善町にふさわしい駅舎の造形の復元」を陳情したことに端を発し、JR側が受け入れたことでそれが実現したものである。）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商會役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長